

【解答にあたって】

この問題も、翻訳部分以外の原文が掲載されていますから、最初に全文に目を通しましょう。

課題文は、まず一七世紀末からの激動の時代を振り返ります。続いて現代に目を転じ、人類は今また大きな転換期を迎えており、テクノロジーが進化し、労働形態が変わり、コミュニケーションが進歩していることを、簡潔に示してゆきます。さらにビジネスや文化にも根本的な変化の波が押し寄せていることに話が及んだあたりからが訳の範囲となります。

問題例1とは違って "I" は出てきません。その分、客観的な論説という特徴が色濃く表れてきます。これまた整った文章ですが、たっぷり情報を盛り込みつつも冗長にならず、事実や著者の知見をかなり断定的に書き綴ってあるのが特徴です。その調子を訳でも生かしましょう。

【訳出のポイント】

- ①出てくる企業は調べやすいものばかりですが、"Universal Vivendi" は著者の誤りで、"Vivendi Universal" のはず。原書を読んでいると、誤りや疑問箇所に出くわすことはよくあります。そんな場合、明らかな誤りは正し、怪しい箇所は著者に確認するなどして正確を期すのも翻訳者の仕事のうちです。
- ②ダッシュで挟まれた部分はもちろん "The high-end income earners" の補足説明です。訳すときは必ずしもダッシュを使う必要はなく、地の文に織り込むことも、() に入れてしまうことも可能です。
- ③ "now" は、たんに「今」というより、「いまや」とか「今では」という、従来との比較のニュアンスを含んでいます。
- ④そのあとに出てくる "experiences" は、普通言うような広い意味での経験あるいは体験ではなく、前に出ている "paid-for experiences" を指しています。
- ⑤ "waging an escalating battle" の "escalating" は原文どおり "battle" の修飾語として訳すよりは、動詞的に捉えて "waging" を目的語にし、「戦いをエスカレートさせている」というような発想で訳したほうが、自然な日本語になりやすいのではないのでしょうか。
- ⑥ "against" の目的語は、"A, B and C" という形になっており、さらに "C" 中の "of" の目的語として "retail franchising" と "entertainments" が並んでいます。
- ⑦ "all of which" は直前にカンマがありますから、いわゆる継続用法です。カンマの前までまず訳し、そこまでの内容の理由として、この関係代名詞節を続ければよいでしょう。
- ⑧最後の文は動詞 "represents" を挟む主語と目的語が両方とも長いので、いくつかの主語・述語の塊に読み換えて訳す手があります。

【翻訳例】

文化とは何かという考え方も、根本的に変わりつつある。ディズニーやヴィヴェンディ・ユニバーサル、AOLタイムワナー、ソニーといった巨大なコンテンツ企業は、世界各地で文化資源を発掘し、それをありとあらゆる種類の有料体験に変えている。世界の消費者の上位二〇パーセントを占める高所得者層は、今では生活必需の商品やサービスに使うのとはほぼ同じ金額を「体験」に費やしている。

この新しい商業に反対する若い世代の文化保護活動家は、「ブランド構築」やライフスタイル・マーケティング、新種の小売店フランチャイズ制とエンターテインメント産業に対する攻撃をエスカレートさせている。これらすべてが文化の画一化につながると考えているからだ。彼らは、地球規模で文化を商品化する新しい商業は世界文化の多様性を脅かすとし、各地の固有の文化を守ることを求めている。商業の領域は文化の領域を呑み込んで、人間の営みを単独で牛耳ろうとしているが、これは、商業と文化の関係における大きな転機を象徴しており、あらゆる社会に重大な影響を長期にわたっておよびすだろう。